

朝日カルチャーセンター

教室・オンライン自由講座

都市鳥の生態学

II

NPO法人自然観察大学前学長 唐沢 孝一

<講座案内>

前回の講座では、人家周辺に元々生息していたスズメやツバメ、カラスと猛禽類の関係、新しく都市に進出してきたキジバトやヒヨドリなどの生態を紹介しました。しかし、都会の鳥はそれだけではありません。

鳥たちは、夜、大都会のどこでどのように過ごしているのでしょうか。都心に進出しつつあるフクロウ（夜行性）とカラス（昼行性）との関係も気になるところです。都心で集団繁殖するアオサギやカワウなどの大型水鳥の生態も見逃せません。公園の池ではカイツブリが、三面コンクリートの都市河川ではカワセミが繁殖し、隅田川沿いのビルの屋上ではウミネコも繁殖するようになりました。さらに、果実食の都市鳥が種子散布し、都市特有の「都市林」形成に貢献しています。今回は、都市鳥の生態を通して見えてくる「人と鳥との関係」について考えてみます。（講師・記）



【カリキュラム】

- 第1回 都会は水鳥たちのサンクチュアリー
- 第2回 ネオン街で眠る都会の鳥たち
- 第3回 野鳥が都会の森をつくる

【広報画像】

- ①水面に浮いた「浮巢」で繁殖するカイツブリ（東京都江東区・清澄庭園）（講師撮影）
- ②鳥たちがつくった都心のシュロ林（東京都港区・自然教育園）（講師撮影）
- ③ネオン輝く繁華街で夜を過ごすハクセキレイ（東京都渋谷区）（講師撮影）

<講師紹介>

唐沢 孝一：（からさわ・こういち）NPO法人自然観察大学前学長。東京教育大学（現筑波大学）理学部動物学科を卒業。都立高校の生物教師を経て、埼玉大学教育学部で「自然観察入門」を担当。日本鳥学会評議員、都市鳥研究会代表、NPO法人自然観察大学学長などを歴任。執筆や講演、自然観察など多方面にわたって活動している。著書に、『目からウロコの自然観察』（2018）中公新書、『都会の鳥の生態学——カラス、ツバメ、スズメ、水鳥、猛禽の栄枯盛衰』（2023）中公新書、他多数。

日 時	2025/2/7, 2/14, 2/21	回 数	3回
	指定金曜日 10:00～11:30		
受 講 料	会員 10,395円 [受講料 9,900円 / 設備費 495円]		
	一般 13,695円 [受講料 13,200円 / 設備費 495円]		
※入会金・受講料等は消費税10%を含む金額です。			

持ち物など 【参考文献】

●唐沢孝一『都会の鳥の生態学——カラス、ツバメ、スズメ、水鳥、猛禽の栄枯盛衰』（2023）中公新書

Zoomウェビナーを使用した、教室でもオンラインでも受講できる自由選択講座です（講師は教室）。見逃し配信（1週間限定）はマイページにアップします。各自ご確認ください。お問合せは asaculonline001@asahiculture.com で承ります。

※ご入会の優待制度をご利用の方はお申し出ください。
※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。
※講師の病気や受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。



朝日カルチャーセンター

<新宿教室>

〒163-0210 新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル 10階

TEL：03-3344-1941 URL：<https://www.asahiculture.com>